

# みんななかまさ!

## 〈 きれいはいのプログラム 〉

しかい : かなざわ けいこ

- |              |                         |
|--------------|-------------------------|
| 2、みんなで歌ううた   | ♪「ハロー！」 P. 29           |
| 3、みんなでいのる    | 主のいのり P. 92             |
| 4、みんなで読むせいしょ | ヨハネによる福音書第10章11-30節     |
| 5、みんなで歌ううた   | ♪「涙そうそう」 P. 64          |
| 6、みんなで聞くおはなし | 「たまねぎ」すがさわ くにあき         |
| 7、みんなで歌うさんぴか | 讃美歌494番 ♪「わがゆくみち」 P. 77 |
| 8、けんきん       | ♪「いまそなえる」 P. 92         |
| 9、しずかなこころ    |                         |

## 〈今日の活動〉 畑へGO!

### 〈ほうこく〉

12日(日)は、「げんきとゆうき」でした。なぞなぞです。春になって、みんなを待っているものはなんでしょうか…? 「…」みんなは、ちょっとわからない様子でしたが、「あっ! いちご!」。畑のいちごが、そろそろ花から白い実になってきていて、もうしばらくしたら、真っ赤ないちごに出会えます。たのしみ!

活動は、今年もこいのぼりに色を重ねる時間を過ごしました。一人ひとりの筆づかいや色の選び方は、似ているようでいて、どれ一つとして同じものはなく、それぞれの個性があらわれていました。子どもたちが、それぞれのペースでいられることを大切にしながら、そのような場であり続けたいと願っています。さりげない関わりの中でも、そのことを意識し続けるのは簡単ではありませんが、子どもたち一人ひとりを大切な存在として、対等に向き合っていきたいと思います。

おやつは、公同特製の「たまねぎポテチ」です。採れたての畑の玉ねぎをスライスして、塩味のポテチチップスと混ぜます。スライスされた玉ねぎは、全然辛くなく、甘くてとても美味しいのです。ごちそうさまでした。

### 〈こどもといのる〉

桜の季節も終わり、新緑の季節を迎えながら、教会の前のチューリップやメダカを覗いたり、津門川の石垣の草花を眺めながら、楽しんでいきます。新しい学年になった子どもたち、元気に毎日を過ごすことができますように。

(もりや ひろこ)

### 〈おしらせ〉

◇4月29日(水、祝)は、「みんなでカレーパーティ」です。本日をもって、締め切らせていただきます。

牛乳パックを集めています。集まった牛乳パックは「おかえりティッシュ」「ただいまロール」になります。牛乳パックは、44961枚から 34枚 集まりました。合計 **44995枚** になりました。2016年5月末に80000枚に到達し、2016年6月より新たにカウントをスタートしています。

2026年4月12日(日)



川崎ななこ



岡田ふうこ



山中あやな



吉田いつき



村田はな



川崎ゆりこ



杉本ゆうき



佐藤たいすけ



武澤こうた



岡田ろく



吉岡あかり



吉野ゆみ



篠田ちはる



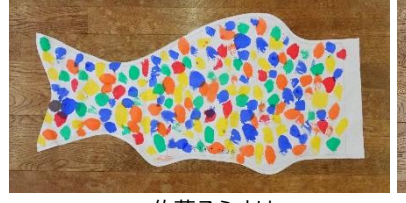
岡田ちほ



戸谷りこ



福中さりな



佐藤そうすけ



脇本さく



佐藤いちか



武澤ゆうた



三録ひなた



山口こはる



渡邊こう



三丸わか



戸谷しゅうすけ



坂本たくみ



福中はる



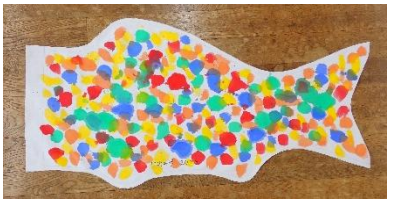
守屋ひろこ



石田まゆみ



上野よしこ



二宮ゆりこ

二 わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。  
 三 羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみ  
 が来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る。そして、  
 おおかみは羊を奪い、また追い散らす。 三 彼は雇人であ  
 べて、羊のことを心にかけていないからである。 四 わ  
 たしはよい羊飼であつて、わたしの羊を知り、わたしの  
 羊はまた、わたしを知っている。 五 それはちようど、父  
 がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと  
 同じである。そして、わたしは羊のために命を捨てるの  
 である。 六 わたしにはまた、この囲いにいない他の羊が  
 ある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わ  
 たしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群  
 れ、ひとりの羊飼となるであろう。 七 父は、わたしが自  
 分の命を捨てるから、わたしを愛して下さるのである。  
 命を捨てるのは、それを再び得るためである。 八 だれか  
 が、わたしからそれを取り去るのではない。 わたしが、  
 自分からそれを捨てるのである。 わたしには、それを捨  
 てる力があり、またそれを受ける力もある。 これはわた  
 しの父から授かった定めである」。

一九 これらの言葉を語られたため、ユダヤ人の間にまた  
 も分争が生じた。 二〇 そのうちの多くの者が言った、「彼は

悪霊に取りつかれて、気が狂っている。 どうして、あな  
 たがたはその言うことを聞くのか」。 三 他の人々は言つ  
 た、「それは悪霊に取りつかれた者の言葉ではない。 悪霊  
 は盲人の目をあけることができようか」。

三 そのころ、エルサレムで宮きよめの祭が行われた。  
 時は冬であつた。 三 イエスは、宮の中にあるソロモンの  
 廊を歩いておられた。 四 するとユダヤ人たちが、イエス  
 を取り囲んで言つた、「いつまでわたしたちを不安のまま  
 にしておくのか。あなたがキリストであるなら、そうと  
 はつきり言つていただきたい」。 五 イエスは彼らに答え  
 られた、「わたしは話したのだが、あなたがたは信じよう  
 としない。 わたしの父の名によつてしているすべてのわ  
 ざが、わたしのことをあかししている。 六 あなたがたが  
 信じないのは、わたしの羊でないからである。 七 わたし  
 の羊はわたしの声に聞き従う。 わたしは彼らを知つてお  
 り、彼らはわたしについて来る。 八 わたしは、彼らに永  
 遠の命を与える。 だから、彼らはいつまでも滅びること  
 がなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。  
 九 わたしの父がわたしに下さつたものは、すべてにまさ  
 るものである。 そしてだれも父のみ手から、それを奪い  
 取ることはできない。 三〇 わたしと父とは一つである」。